

令和 5 年 9 月 15 日発行

# あさかの里だより 93 号

発行：社会福祉法人郡山社会事業協会 あさかの里 E-mail [asakanosato@asksato.or.jp](mailto:asakanosato@asksato.or.jp)

〒963-8862 福島県郡山市菜根 3 丁目 15 番 3 号 TEL 024-939-3401 FAX 024-939-3491



## ~CONTENTS~



猛烈残暑!

- P.2 滝山病院事件から考える精神保健福祉 P.3 新理事よりご挨拶  
P.4 全体行事 BBQ あさかの里大交流会  
P.5 イラスト・詩集投稿コーナー  
P.6 新人スタッフ紹介 / 寄付のお礼 / スタッフリレーコラム

## 滝山病院事件から考える精神保健福祉

今年（令和5年・2023）2月、NHK「ニュース7」は、東京都八王子市にある精神科病院「滝山病院」で、入院患者への暴力の疑いにより複数の看護師が警察の捜索を受け、うち1人が逮捕されたと報じました。同じく2月25日放送のEテレ「ルポ 死亡退院～精神医療・闇の実態」でドキュメンタリー番組としても取り上げられました。番組の中で、滝山病院の看護師が患者に対して罵倒したり威嚇したりする様子や、人権を無視した院長や看護部長の会話などの動画が明らかになりました。内部告発をきっかけに事件が発覚し、看護師ら5人が逮捕や書類送検されています。滝山病院の患者から虐待の相談を受けた弁護士は「内部告発のデータ（映像・音声）から、少なくとも10人以上の職員が暴行や暴言などの虐待行為を行い、数人の職員が偶然暴行を行ったとは考えられず、病院全体で日常的に虐待行為が行われていた可能性がある」と指摘しています。病院を監督する立場にある東京都は、虐待を認定したうえで、管理体制に不備があったとして病院に改善命令を出しました。テレビや新聞などで明らかになったのは、すさまじい虐待や身体拘束、暴言が常態化していること、患者の人間としての尊厳が奪われている実態でした。さらに不適切な治療が行われていたという疑惑も生じています。

1984年、看護職による暴行で2人の患者が死亡した宇都宮病院事件から、今回の事件までも精神科病院での虐待等、不祥事が繰り返されています。

今回の事件は、単なる虐待事件だけではなく、日本の精神医療の様々な問題をはらんでいるということです。

先のEテレの番組の中では、入院患者の多くが生活保護受給者であることや、人工透析が必要な腎疾患を併せ持つ患者の受け入れ先として東京都以外の他県からの患者も受け入れていたことなども明らかにされました。

「滝山病院事件は、単なる精神科病院の患者虐待事件ではなく、医療・福祉行政が絡んだ構造的な問題がある」「私自身も、同病院がなくなっては困る医療・福祉システムの片棒を担っている」と、東京都立松沢病院の名誉院長・精神科医である斎藤正彦先生は述べています。また「滝山病院と宇都宮病院に共通するのは、もともとその医療内容に疑念を持たれていたにも関わらず、医療機関にも、福祉機関にも必要とされる病院だったこと」とも述べています。

生活保護受給者で経済的な自立の困難さがあり、他の内科的な疾患がありその治療も必要である患者の受け入れ先がないということ、行政も医療機関も福祉関係者、家族も含めて、地域の中で治療と支援をしていく具体的なすべがないという現実を突きつけられています。「構造的な問題」というのは、諸外国に比して日本の精神科入院期間の長さの問題（OECD加盟国の多くで、精神科の平均在院日数は40日弱。日本では260日以上。H29厚労省患者調査）、長期入院が多く、地域への移行が一向に進まないこと、居住支援や地域での生活支援の貧困・脆弱性の問題。さらに家族への依存体質など、根底から精神医療・福祉を考え、同時に社会に根強くある偏見や差別の解消についても深めて考えていかないと、問題の解決には到底至らないのではと思います。

昨年9月、国連障害者権利委員会は日本政府に対し、総括所見（勧告）を発表しました。精神医療や強制的な入院等について改善を求めています。では私たちに何ができるのか？ 精神疾患や生活のしにくさを抱える方たちとともに働き、暮らしを支える支援者として、その考えや生き方が問われていると考えます。 （朝生）

※参考・引用 認定NPO法人日本障害者協議会声明／毎日新聞医療プレミアサイト／NHKインターネットサービス等

あさかの里は社会福祉法人であり、評議員会、理事会で、法人の経営について協議し、運営方針を定めていきます。評議員会で承認された事項を、理事会が中心となり、日々、職員が事業をすすめていくこととなります。毎年度必ず一回6月に定時評議員会が開かれます。今年度は、理事、監事の任期満了により、改選手続きを行い、定時評議員会にて、令和5年度から7年度6月までの理事、監事が選任されました。

その後理事による互選で理事長、副理事長が下記のように選任されました。

理事長 朝生裕之  
副理事長 渡邊忠義(あさかホスピタル)  
理事 今村吉美(針生ヶ丘病院)  
理事 川瀬美紀子  
理事 堀米美佐子  
理事 下垣内涼子  
監事 吉田仁一  
監事 佐藤慎一(認定こども園らのみな)

評議員 大森洋亮(針生ヶ丘病院介護支援室)  
阿部和紀(三春町敬老園)  
高橋淳(太田西ノ内病院)  
金澤麻衣(星ヶ丘病院)  
牧田くに子(ポプラ福祉会)  
兼田文子(宙の仲間たち)  
渡辺静子(あさかの里・お茶っこ会)  
穴戸邦明

理事であった松本マチ子さんは、病院を退職しあさかの里職員になったことで、理事を退任し、新たに今村吉美さんが後任として理事に就任しました。

### 新理事ご挨拶

この度、前任の松本マチ子さんより引継ぐ形であさかの里理事になりました針生ヶ丘病院のソーシャルワーカー今村です。松本さんが針生ヶ丘病院のソーシャルワーカーとしてあさかの里の歴史に深く関り続けてこられ、その後任を担うということは私にとっては重責です。しかし、松本さんのソーシャルワーカーとしての熱い想いを引継ぎ、みなさんとより良いあさかの里の今後を考えていけたら良いなと思っています。よろしくお願いいたします。

今村 吉美

### 病院からあさかの里に来て

私は、今年4月からぱれっとの地域生活支援員と、グループホーム開成寮の世話人として入職しました。私とあさかの里との関係はとても長く、まだあさかの里が共同住居をやっていた頃に訪問に行ったことが最初のつながりです。その後は、病院を退院する方の地域での生活の場として、多くの方を受け入れていただきました。退院後のグループホームへ訪問することも多く、あさかの里スタッフとは連携し、地域生活支援をしてきました。あさかの里は常に利用者主体で運営されていることを間近で感じてきたので、定年退職後に地域で働きたいと思った時にあさかの里に来ることに迷いはありませんでした。入職してからは、病院との違いに戸惑うこともあります。皆さんに助けられ何とか二つの仕事をやらせていただいています。これからもよろしくお願いいたします。

松本 マチ子

# バーベキュー大会



令和 5年 6月 9日(金)



四季の里 郡山緑水苑にて

おにぎり付 

飲み物 

焼きそば 



新緑の時期は初めて

開催しました。

王様ジャンケンで

食材を獲得！！

とうもろこし・シーフードなど

とてもおいしかった！！

## あさかの里 大交流会 2023

令和 5年 7月 18日(火)

障がい者福祉センターにて

訪問看護ステーションこころのあいの

伊藤慎祐さんからお話を聞かせて頂きました。

質問コーナーでは、親身になってお話をしてくださいました。



各所紹介と事業報告

お楽しみのケーキと飲み物で

交流会をしました。

 あさかの里の全体行事は、メンバー、スタッフともに感染防止対策を充分にして

協力しながら実施しています。 



# イラスト・詩集投稿 コーナー

ひまわり寮 渡辺 久美子 さん より

心の中 明るいもの 暗いもの  
 どっちが得するかな  
 きっと それは 誰にもわからないけど  
 自分ひとり ひとりにしかわからないものだと思うよ  
 わかったとしたら みんなに 教えてあげてね  
 そしたら みんなも 明るくなれるから お願いだよ  
 心の中に とし込めたら  
 何にも わからなくなってしまうから  
 私にも 教えてね  
 そして 私から みんなに教えてあげるね  
 心の中に 住み込ませたくないもの  
 だから みんなの心に 住ませないよう  
 どこか 遠くへ 逃げこんでしまおう

今日空 青い空 白い雲が浮んでる  
 白はうさぎかな 青い空に白い雲  
 やっぱい 白い雲は うさぎかな  
 でも雲は いろいろ決まっている  
 うろこ雲 ひつじ雲 白い雲は  
 うさぎ雲かな  
 空には 雨もふってくる  
 誰かが 花に水をやいたから  
 あちこちに雨を  
 ふうして けているのかな  
 雲は どこまで 続いているのかな  
 きっと それは 誰も知らないよ

くま さん より



『線香花火』

線香花火は 光るのを諦めない  
 ぱちぱちと歌いなバツ  
 夏の夜に花を咲かせる  
 自分が長く咲けないことを 知ってるだろうに  
 輝くことを 胸を張ることを  
 そして何より、生を全うすることを  
 最後まで決して やめはしない  
 最後の最後まで 自分らしく輝いて  
 花弁を伸ばして 光って  
 そうして静かに枯れる花  
 線香花火が あたしの心に残るのは  
 ただの切なさからじゃ ないように思う  
 きっと、心を死なせず  
 最後まで精一杯生き抜く様か  
 胸に焼きつからだと、そう思うんだ  
 あたしは線香花火と比べたら  
 ずっと長く生きるのだろうが、  
 それでも、線香花火のように生きられたらと思う  
 最後の瞬間まで精一杯、  
 心を生かして 歩いていきたい

作品募集中!!お近くのスタッフまで!!

## 新人スタッフ紹介

松本 マチ子さん

所属…開成寮 ぱれっと

猫好きです。

現在は、7才のメスのトラ猫と暮らしています。

猫は人間の気持ちがわかるので、毎日癒されています。



橋本 晃子さん

所属…花みずき寮

好きな事…韓国ドラマ おやしんばん

7月から花みずき寮の世話人としてお世話になっています。メンバーさんと一緒に笑顔で楽しい時間を過ごせたらと思います。

どうぞよろしくお願いします。



## ～～寄付・協賛の御礼～～

コカ・コーラボトラーズ(株) (株)伊藤園

敬称略 ご協賛・ご提供ありがとうございました。

## スタッフ リレーコラム

このリレーコラムもとうとう自分の順番が来てしまいました。これを書くにあたって、話の種に何か新しい趣味でも始めようかと思ひ、植物の栽培や釣りをしてみたのですが、どれもなかなか定着しませんでした。そんななか唯一、妻と一緒に購入して始めたカメラは、外出時にちよくちよく持ち出して撮るようになりました。

正直に話すとカメラを始める前の自分は、写真の楽しさについて、いまいちピンと来ていませんでした。しかし被写体を格好良く撮るために、二人で試行錯誤しながら撮った写真を後から見返すと、その時の雰囲気や情景、会話の内容が浮かんで来て、下手な写真だったとしても当時の思い出が蘇るのを実感しました。また、ある縁がきっかけでお世話になったカメラマンさんが撮ってくれた写真に映る人達が自然体で楽しそうな笑顔だったのを見て、自分もこんな風に撮ってみたいと思うようになりました。その方がみせる丁寧な気遣いによって生まれる雰囲気は、その場を和ませて自然と笑顔にしてしまう力を持っていて、他のスタッフさんも生き生きとそれぞれの力を発揮していました。その方の写真に映る人に向きあう姿勢は、人と人を繋ぐ自分の仕事にも通じるものと感じ、これからの人生に活かしていきたいと思いました。

その為にもこれから様々な出来事を経験し、その時に感じた気持ちを大切にしていきたいと思ひます。その感情の中には楽しいことも辛いこともあると思ひますが、どれも心に刻んでおきたいと感じます。そして年を重ねた時に二人で写真を見返し、「あの時あんなことがあったね」、「こんな気持ちだったよ」と振り返る事が出来ればよいなと思ひています。

石黒 貴之

～次回は後藤 悦子さんです～